

Golden Star

LAWN MOWER

取扱説明書

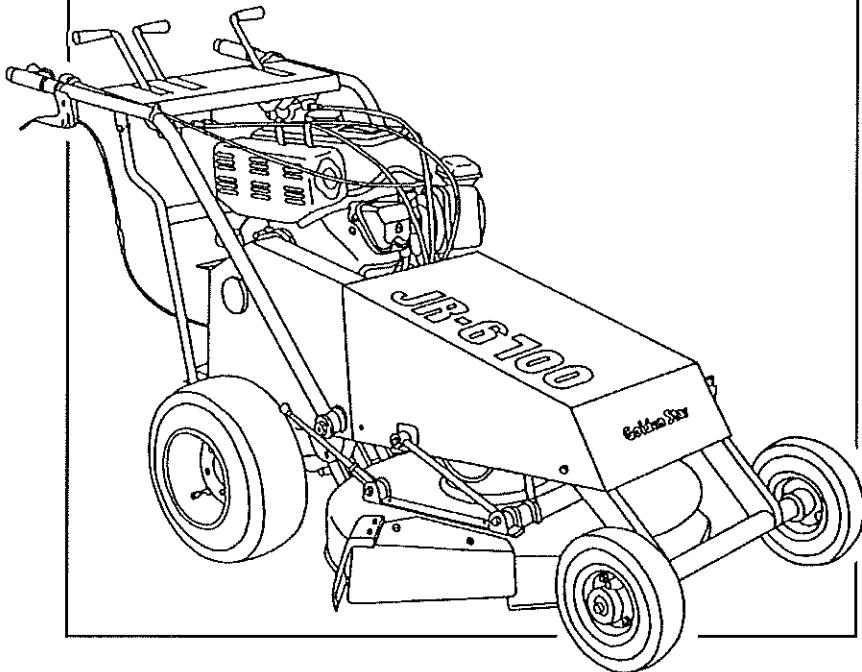
ゴルデンスター

エンジン芝刈機

ニュージャンボロータリーモー

JR-6700

JRS-6700 (セルスターター付)



お買い上げありがとうございました。

- この取扱説明書は、いつでも使用できる所に大切に保管してください。
- ご使用前に、まずこの取扱説明書をよく読まれ、本機の機能をご理解の上、正しく安全に使用くださるようお願い致します。

頑丈・安心・日本製

目 次

	頁
1. 安全にお使いいただくために	2～3
2. 危険・警告ラベル貼付	4
3. 仕様	4
4. 各部の名称	5
5. 組立	6～8
1) ハンドルの取付け	6
2) ケーブルをまとめる	6
3) 排出安全カバーの取付け	6
4) ケーブルの調整	7～8
6. 各部の取り扱い	8～9
1) 刈取り高さの調整	8
2) 変速レバー	9
3) サイドクラッチレバー	9
7. エンジン始動前の点検	9～12
1) エンジンオイルの点検	9
2) エンジンオイルの交換	9～10
3) ミッションオイルの交換	10
4) ロータリーギヤーボックスオイルの点検	11
5) バッテリーに電解液を注入する	11～12
8. エンジンの始動	12～15
1) ガソリンの点検	12
2) 始動	13
3) 作業開始	14
4) エンジンの停止	14
9. ブレードの点検・交換	15
10. サルキー乗車装置	15
11. 点検・整備・調整	16
12. 長期間保管する場合	17
13. 本機の異常と対策	18

1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では『危険』『警告』『注意』の警告事項について、次のように定義しています。

▲ 危険	・誤った取扱いをした時に、重傷または死亡につながる重大事故が発生する可能性があるとき
▲ 警告	・誤った取扱いをした時に、重大な傷害を受ける事故が発生する可能性があるとき
▲ 注意	・誤った取扱いをした時に、軽傷または中程度の傷害をうけ、財物の損壊等につながる事故が発生する可能性があるとき

本機のご使用前に、以下の危険、重要警告及び注意事項をよくお読みいただき、理解し必ず守って下さい。

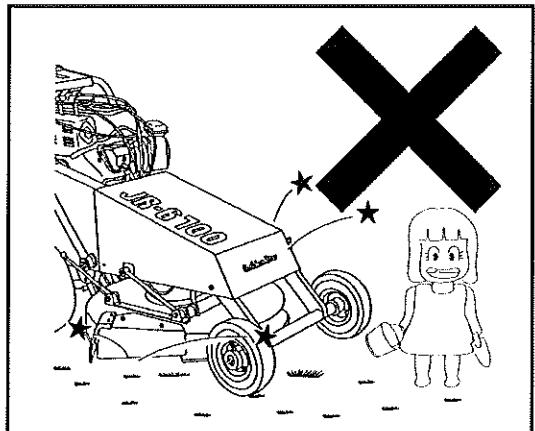
▲ 危険	人が死亡または重大な傷害を負う場合がありますので、絶対にやめて下さい。
1. エンジン回転中には、フレーム下部には <u>手・足等身体を近づけないでください。</u>	 エンジン回転中は、手足等、身体を近づけないで下さい。 ・回転するブレードで手・足等身体を切断、もしくは巻き込んで重大な人身事故をまねきます。
2. <u>傾斜地では作業しないで下さい。</u>	 傾斜地での作業はしないで下さい。転倒事故が発生する恐れがあります。
3. <u>芝刈作業以外には使用しないで下さい。</u>	・本機は芝生を刈るために設計・製造されています。
4. 未成年の方による操作は、 <u>保護者の監督下でない限りおやめ下さい。</u>	
5. <u>本機の操作方法をご存じない方、または理解出来ない方には使用させないで下さい。</u>	
6. 本機の取扱いの指導を受けていない人や扱いに不慣れな人には、 <u>本機を貸さないで下さい。</u>	

⚠ 警告

人が重大なケガを負う場合がありますので、必ず守って下さい。
禁止事項は、絶対にやめて下さい。

1. 作業中は、人や動物を近づけないで下さい。

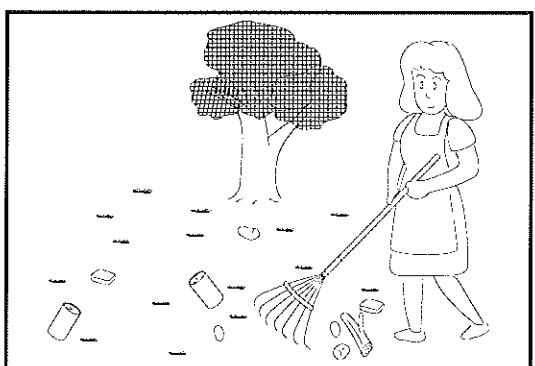
- ・作業中は、作業者以外（人や動物）を作業現場周辺に近づけないで下さい。
飛散物で人身事故の恐れがあります。



2. 作業範囲の石・空き缶・木片などの異物を取り除いて下さい。

3. 次の場合は、エンジン回転を停止させ、
プラグキャップを点火プラグより外し、
刃物が停止してから行って下さい。

- ・点検、修理及び部品交換時
- ・刃物の周囲や排出通路に詰まった刈草の除去時
- ・刈高さ調節時
- ・ガソリン給油時（エンジンが冷えてから行う）



4. 換気の悪い室内ではエンジンを運転しないで下さい。

- ・有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。

5. ヘルメット等、JIS等の規格に合格した保安帽を着用するとともに手袋・防塵メガネ・耳栓をつけ、足下の保護のため安全靴を履いて下さい。

6. 長袖、長ズボンの作業服を着用して下さい。

- ・但し、袖、すそのだぶついたものは着用しないで下さい。

7. 疲れている時、身体の調子の悪い時は使用しないで下さい。

8. 夜間及び、天候の悪い時は使用しないで下さい。

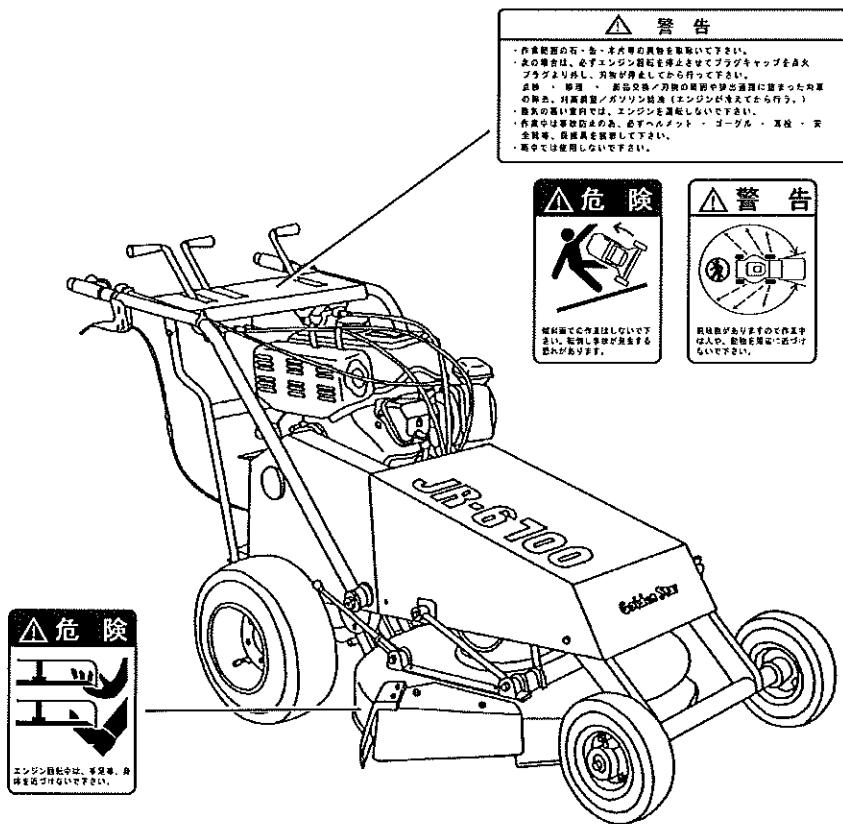
9. 排出カバーは、必ず定位位置に取り付けて作業して下さい。

- ・カバーが外されている場合は、エンジンを始動しないで下さい。
- ・身体の一部が巻き込まれ、けがをする恐れがあります。
- ・飛散物で人身事故の恐れがあります。

10. 本機のバランスを保つ事ができない足場の悪い作業現場では、作業しないで下さい。

11. 使用後は、お子様の手の届かない、鍵のかかる所に保管して下さい。

2. 危険・警告ラベル貼付位置

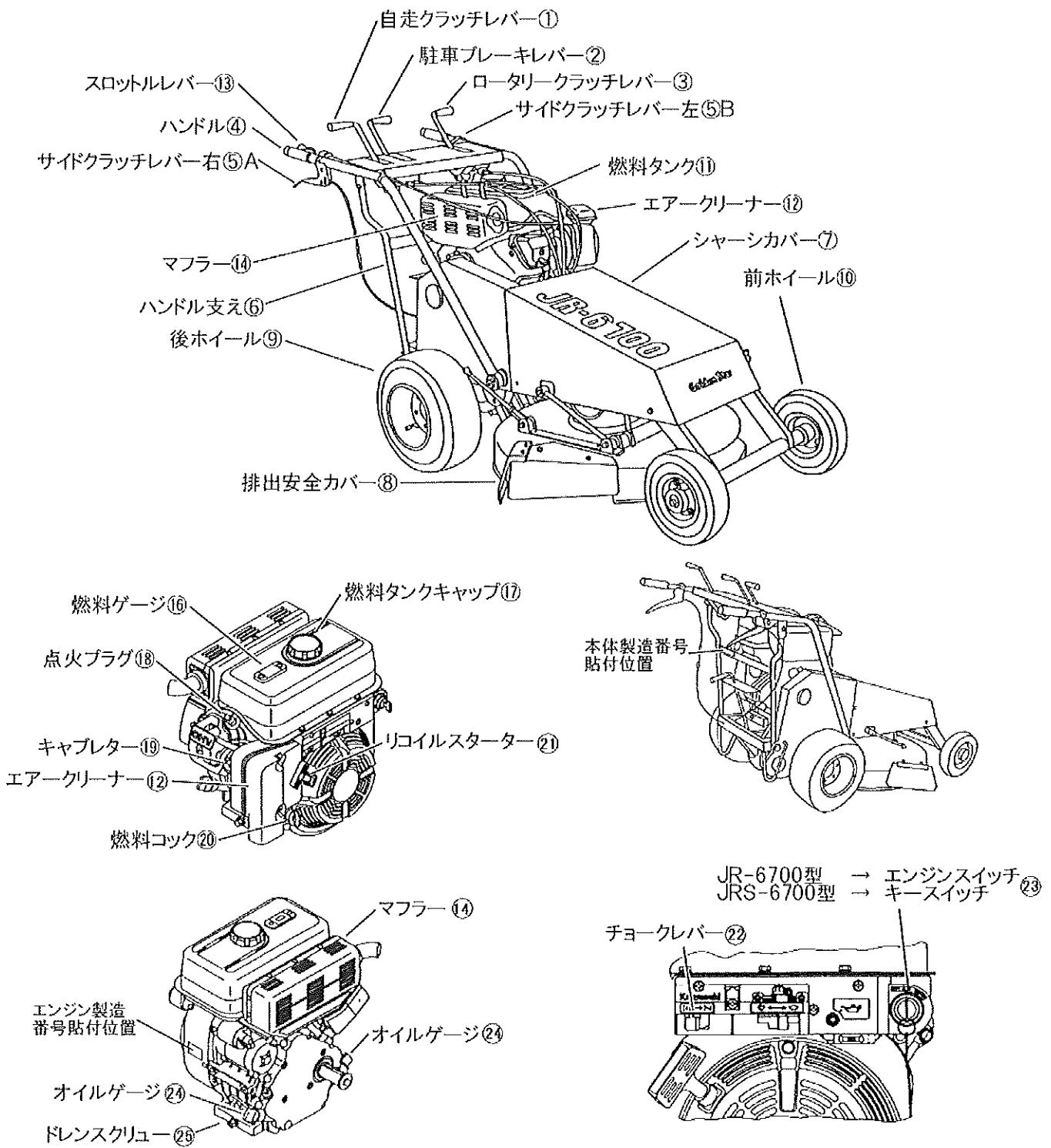


3. 仕 様

本機型式	JR-6700	JRS-6700
エンジン型式	FE221DX	FE221DSX
エンジン形式	空冷4サイクルOHV型ガソリンエンジン	
総排気量 (cm ³)	249	
最大出力 (kW(Ps)/rpm)	5.6(7.5) / 4000	
燃料タンク容量 (l)	5.3	
エンジン潤滑油 (l)	最高1.1~最低0.8	
点火プラグ	NGK BP5ES 又は、BPR5ES	
刈幅 (mm)	600一枚刃	
刈高 (mm)	20~80 (4段階)	
ロータリーギヤーオイル(l)	0.3 (ギヤーオイル SAE 90)	
自走速度 (km/h)	前進2段 2.7 / 4.1 、 後進2.7	
ミッショントイル(l)	0.5 (ギヤーオイル SAE 90)	
バッテリー	————	FTX12-BS 12V 10A
装備寸法 (L×W×H)		1500×780×900
タイヤサイズ	前	8×3.00-4
	後	13×5.00-6
乾燥重量 (kg)	108	115
同梱部品	プラグレンチ +ドライバー スパナ(24)	排出カバーComp(組立済み) エンジン取説 本体取説(本紙)

※仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承下さい。

4. 各部の名称

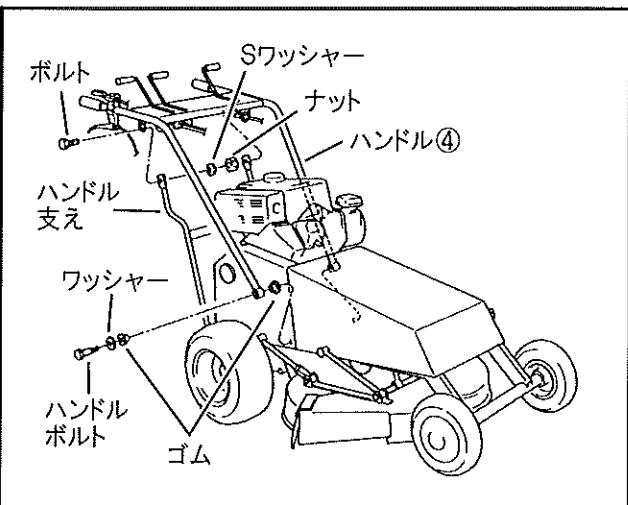


※イラストはお客様が御使用の機械と形状と説明が異なる場合があります。

5. 組立

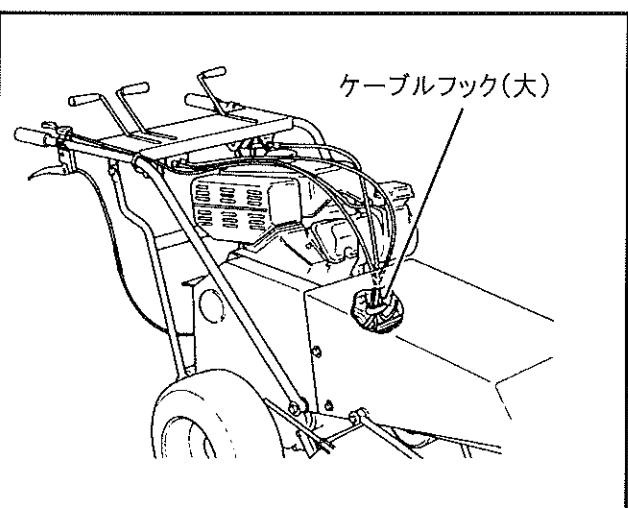
1) ハンドル④の取付け

1. 工場出荷時右図のように組立てられていますが、緩み等が無いか使用前に点検して下さい。
2. 点検時(増し締めされる時)、ハンドルボルトは完全に締付けて下さい。



2) ケーブルをまとめる

1. スロットルケーブル、自走クラッチケーブル、駐車ブレーキケーブルをハンドルの右パイプ部にケーブルバンドで固定して下さい。
2. ロータリークラッチケーブルは、ハンドルの左パイプ部に固定して下さい。
3. ケーブルをまとめる場合、急激な曲がりやヨジレがない事を確認して下さい。

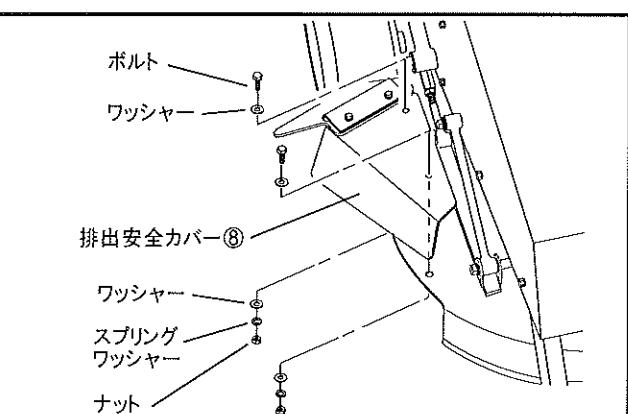


▲ 警告

6本のケーブルを、ハンドルで巻き込んだり挟み込んだりしないで下さい。緊急時に事故回避操作が出来ません。

3) 排出安全カバー⑧の取付け

1. 右図の様に排出安全カバーを取付けて下さい。
2. 排出安全カバーは組立てられた状態で同梱されています。ボルト、スプリングワッシャー、ワッシャー、ナットを取り外し、本機に確実に取付けて下さい。



▲ 警告

排出安全カバーを外した状態で使用しないで下さい。
・身体の一部が巻き込まれ、ケガをする恐れがあります。
・飛散物で人身事故の恐れがあります。

4) ケーブルの調整

- 工場出荷時に各ケーブルは調整していますが、使用前に各ケーブルの動作確認を行つて下さい。

1. 自走クラッチレバー①の点検

- 自走クラッチレバー①を「入」「切」した時、自走テンションレバー（エンジン出力軸側に有ります。）が正常に動作しているか確認して下さい。
- 自走テンションレバーについているテンションプーリーが自走Vベルトを確実に押し込んでいる事（スプリングが伸びるまで引いている事）を確認して下さい。
- 自走Vベルトを確実に押し込んで無い時はケーブルアジャスターのロックナットを緩めアジャスターナットでケーブルの引き代を調整して下さい。
- 自走クラッチレバー①を「切」から「入」に替えた時、駐車ブレーキレバー②が「入」から「切」に自動的に替わるか確認して下さい。

2. 駐車ブレーキレバー②の点検

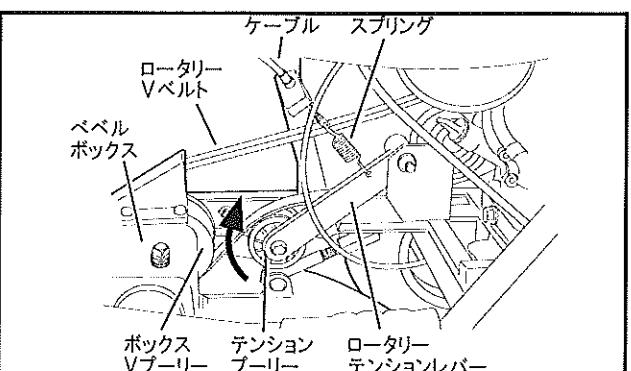
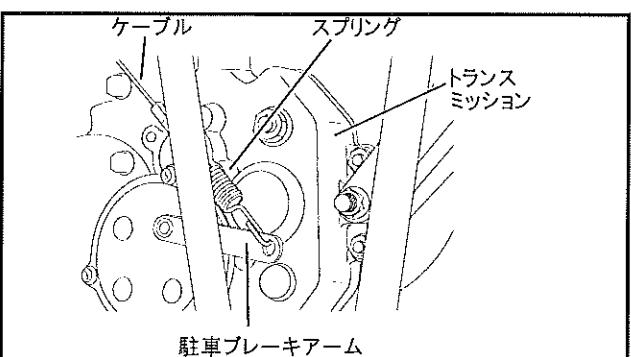
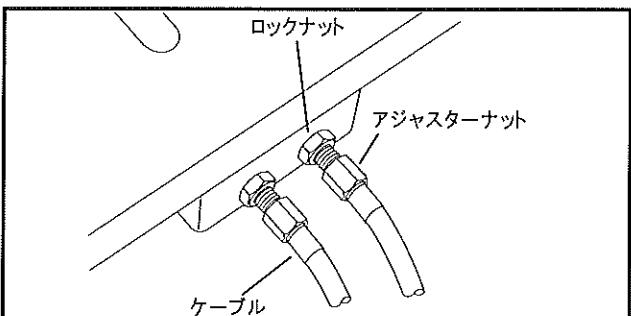
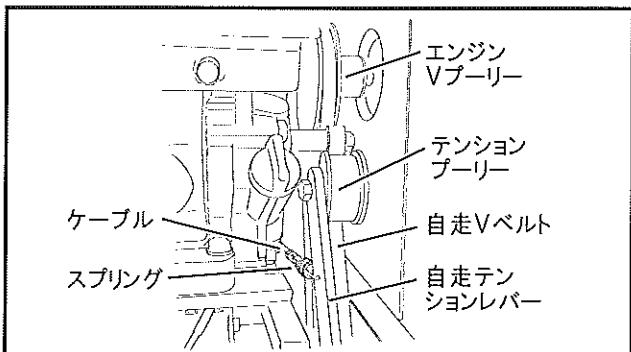
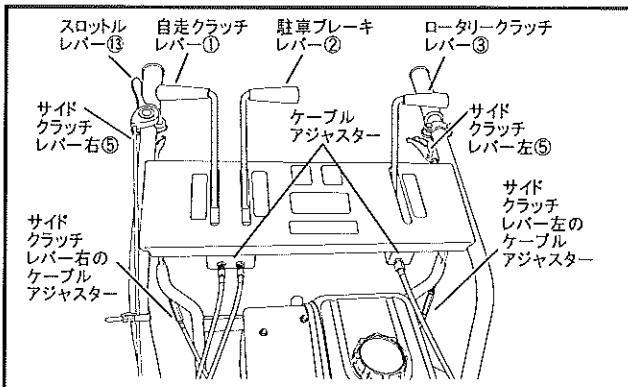
- 駐車ブレーキレバー②を「入」「切」した時、駐車ブレーキアーム（トランミッショントラム側面に有ります。）が正常に動作しているか確認して下さい。この時スプリングが伸びるまで引いている事を確認して下さい。
- スプリングが伸びるまで引いて無い時はケーブルアジャスターのロックナットを緩めアジャスターナットでケーブルの引き代を調整して下さい。

3. ロータリークラッチレバー③の点検

- シャーシカバー⑦を外して下さい。
- ロータリークラッチレバー③を「入」「切」した時、ロータリーテンションレバーが正常に動作しているか確認して下さい。
- ロータリーテンションレバーについているテンションプーリーがロータリーベルトを確実に押し込んでいる事（スプリングが伸びるまで引いている事）を確認して下さい。
- ロータリーベルトを確実に押し込んで無い時はケーブルアジャスターのロックナットを緩めアジャスターナットでケーブルの引き代を調整して下さい。

4. サイドクラッチレバー⑤の点検

- サイドクラッチレバー⑤を握った時、サイドクラッチアーム（トランミッショントラムの上部にあります。）が正常に動作しているか確認して下さい。

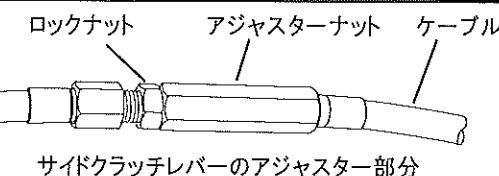


5. 動作確認

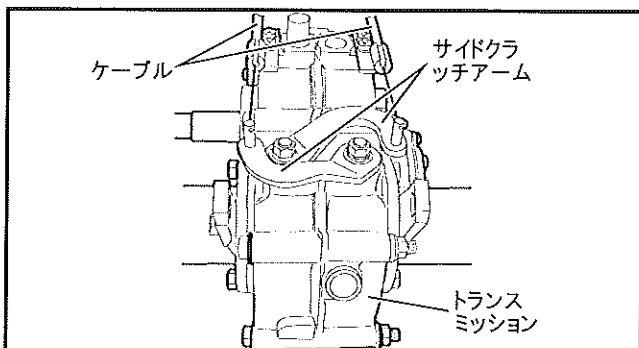
⚠ 警告

エンジンの始動はエンジン、ブレード等の点検を全て済ませたから行って下さい。

- ・水平な場所で刈取高さを一番高くし、自走クラッチレバー①を「切」、駐車ブレーキレバー②を「入」、ロータリークラッチレバー③を「切」、変速レバーを「中立(N)」にし、エンジン始動の項に従いエンジンを始動して下さい。
- ・変速レバーを「前進(低)」、自走クラッチレバー①を「入」にした時、本機が前進。自走クラッチレバー①を「切」にした時、本機が停止。駐車ブレーキレバー②を「入」にした時、本機が駐車する事を確認して下さい。注意) 駐車ブレーキは本機の走行を停止させるブレーキではありません。
- ・本機が前進している状態で、サイドクラッチレバー⑤を握り本機が旋回する事を確認して下さい。右を握れば右旋回、(左を握れば左旋回します。) 正常に旋回しない場合はケーブルアジャスターのロックナットを緩めアジャスターナットでケーブルの引き代を調整して下さい。
- ・ロータリークラッチレバー③を「入」にした時、ブレードが回転。「切」にした時、ブレードが停止する事を確認して下さい。



サイドクラッチレバーのアジャスター部分



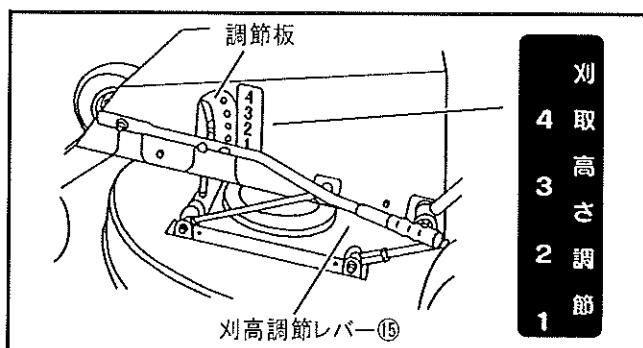
6. 各部の取り扱い

⚠ 警告

刈取高さの調整は、必ず、エンジン回転を停止させ、ブレードが停止している事を確認してから行って下さい。

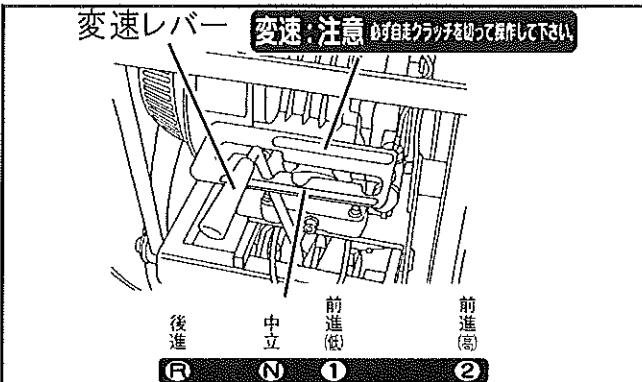
1) 刈取り高さの調整

1. 芝生の状態、場所に応じた刈取高さの調整を行って下さい。20mm~80mmまで4段階の調整が出来ます。
2. 刈取高さの調整は、エンジン停止状態か又は、駐車ブレーキレバー②を「入」にし、ロータリークラッチレバー③を「切」にしてブレードの回転が停止しているのを確認してから、刈高さ調節レバー⑯を操作して下さい。尚、刈取作業をしないで移動させる場合は4の位置(刈取高さ80mm)で行って下さい。
3. 刈取高さ調節レバー⑯を外側に引張り、調節板の孔からレバーのピンが出たのを確認して表示の1~4までの位置を選んで下さい。(刈取高さは、1→20mm、2→40mm、3→60mm、4→80mmとなります。)
4. 芝生が伸び過ぎている場合は、最初から短く刈ると本機に過度の負担が掛かり故障の原因となるばかりでなく、芝生を傷める恐れがあります。最初は刈高さを高くして刈り、2度、3度と日を置いて順次短く刈込むようにして下さい。



2) 変速レバー

1. 変速レバーは必ず自走クラッチレバー①を「切」にして操作して下さい。
「2」(高速)「1」(低速)の前進2段階にスピード調整ができます。
「R」(後進)は1段階です。



3) サイドクラッチレバー

1. 左右への旋回時に使用します。
2. 右のサイドクラッチレバー⑤Aを操作(にぎる)すれば右へ旋回します。
3. 左のサイドクラッチレバー⑤Bを操作(にぎる)すれば左へ旋回します。

▲ 警告

平地及び、登り傾斜地の場合は上記操作の通りですが、下り傾斜地でのサイドクラッチレバーの操作は機体の自重により反対に旋回しますので特に注意して下さい。

7. エンジン始動前の点検

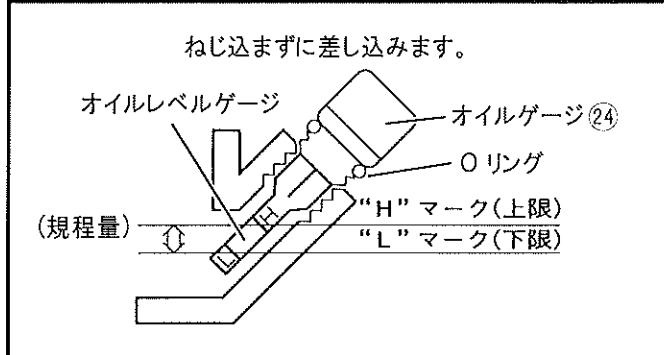
▲ 警告

- ・必ずエンジン取扱説明書を読み使用・点検・整備方法を理解してください。
- ・点検は芝刈機を水平な安定した場所でエンジンを止めて行って下さい。

1) エンジンオイル点検

工場出荷時にエンジンオイルは入れてあります
が、使用前には必ず点検して下さい。

1. オイルレベルゲージ④を取外して付着したオイルをきれいな布(ウエス)で拭いて下さい。
2. オイルレベルゲージ④をねじこまことに、注油孔に差し込み、すぐ引き抜いて付着したオイルを見て油面の高さを点検します。
3. オイルレベルが“H”マークと“L”マークの間にある事を確認して下さい。“L”マークより低いか又は、これに近い場合は、直ちに新しいエンジンオイルを“H”マークまで補給してください。
4. 点検後はオイルゲージ④を確実に取付(ねじ込む)けて下さい。



2) エンジンオイルの交換

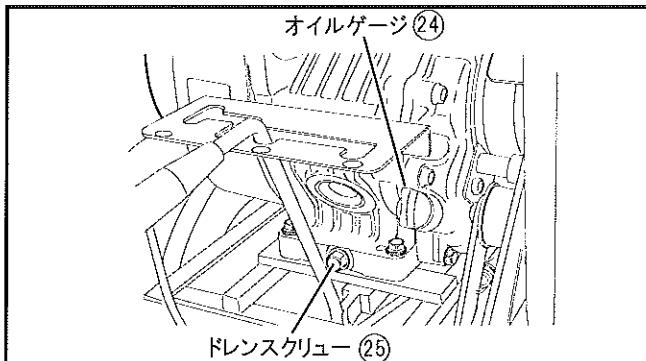
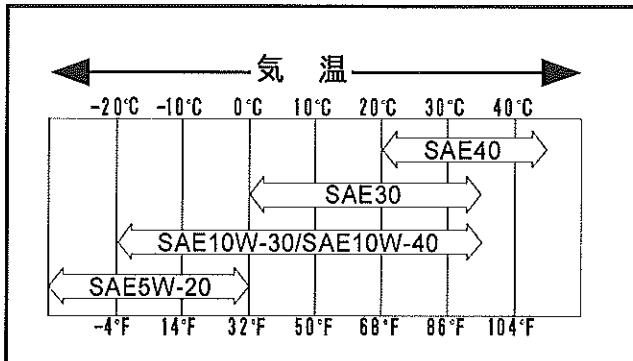
初回20時間使用後に交換、以後は「定期点検整備表」に従ってエンジンオイルを交換して下さい。

1. 暖機運転をして下さい。(オイル排出を容易にするため)
2. エンジン(本機)を水平にして下さい。正しくオイルを測るためです。
3. エンジンを停止させます。
4. オイルゲージ④を取り外します。
5. エンジンの両側にあるドレンスクリューのどちらかを取り外してエンジンオイルを抜きます。(詳細はエンジン取説を参考ください。)

▲ 警告

排出するエンジンオイルで火傷をしないように注意して下さい。

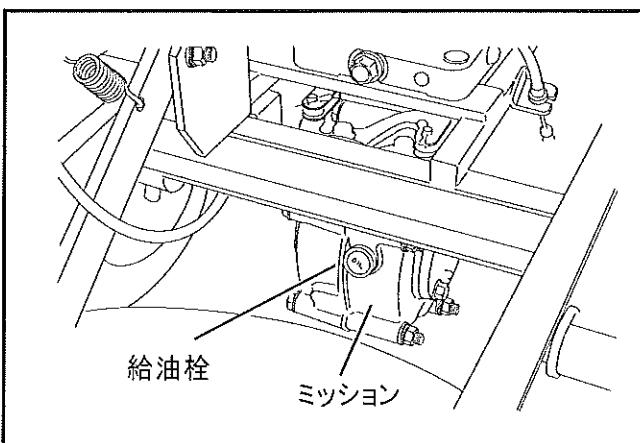
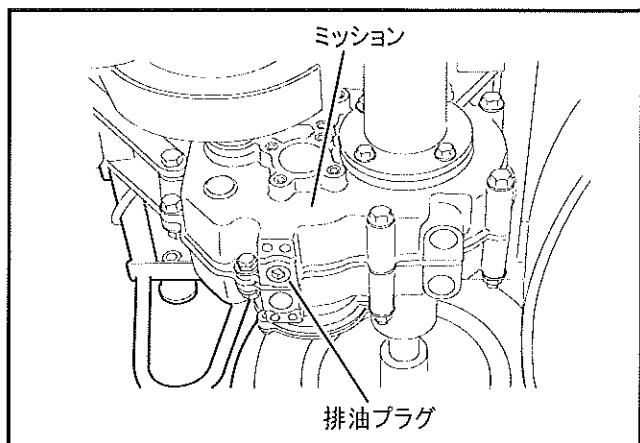
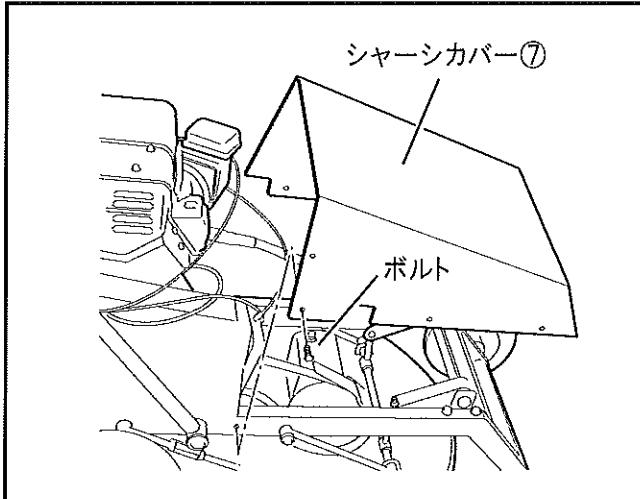
6. ドレンスクリューを取付けます。
7. 注油孔（オイルゲージを外した部分）から新しいエンジンオイルを注入します。
8. エンジンオイルレベルを点検してください。（方法については「エンジンオイルレベルの点検」を参照してください。）（エンジンオイル量は1. 1 ℥です。）
9. オイルゲージを取り付けます。



▲ 注意	<p>SF、SG、SH 又は、SJ 級のエンジンオイルを使用してください。 エンジンオイル粘度を気温に応じて選んでください。基準を表に示します。</p>
-------------	--

3) ミッションオイルの交換

- 工場出荷時にミッションオイルは入っています。使用 300 時間毎、若しくは年に 1 度は交換して下さい。
(ミッションが冷えてから行って下さい。)
1. シャーシカバー⑦を取外します。
 2. 本機が水平になる位置に固定し、オイル受ける容器を準備し、給油栓を外し、ミッションの下側にある排油プラグを緩めてオイルを抜きます。
 3. オイルが抜ければ廃油プラグにシールテープを巻いて確実に締付けます。

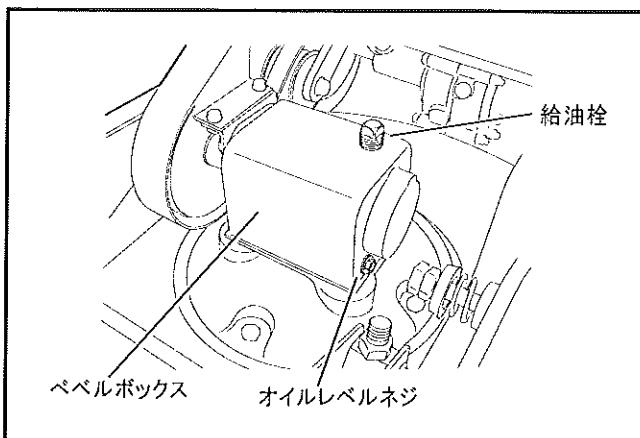


4. 給油栓を外した穴より、オイル(ギヤーオイル SAE90)を規定量 0.5 ℥給油します。
 5. 給油後は、給油栓を確実に取付けてください。
- * 注意: 規定量より多いと給油栓より漏れ、少ないとギヤーが焼き付く場合があります。

4) ロータリーギヤーボックスオイルの点検

工場出荷時にロータリーギヤーボックスにオイルを入れておありますが、使用前には必ず点検して下さい。

1. シャーシカバー⑦を取り外し給油栓を取り、横のオイルレベルネジを取り、この穴から少し流れ出るまで入れて下さい。
2. オイルはギャーオイル SAE90 (粘度) を使用します。規定量 0.3 リットルです。



5) バッテリーに電解液を注入する (JRS-6700 セルスターター付)

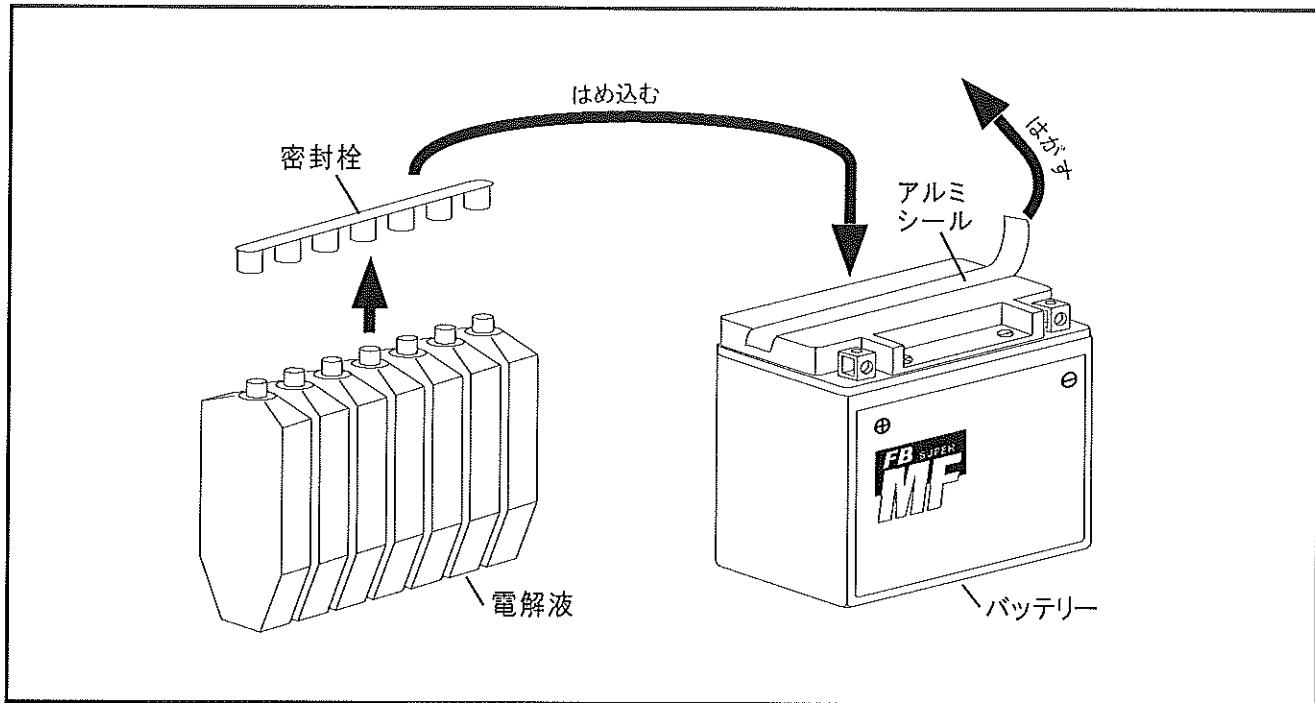
▲ 注意

バッテリー取付時は、「+」「-」電極の接続は間違いないようにして下さい。エンジン電子部品を破損します。

1. バッテリーは、シャーシ中央部にセットされていますので、シャーシカバー⑦を取り外して下さい。
2. バッテリーをシャーシより取外し、上部のアルミシールをはがして下さい。
3. 付属の電解液を注入します。この際、電解液に付属の取扱説明書をよくお読みの上、こぼさないように正しく注入して下さい。
4. 注入が完了すると、電解液容器に付いている密封栓を注入口へ完全にはめ込んで下さい。
5. バッテリーは、+側を前方にしてシャーシに取付け確実に固定して下さい。この場合、バッテリーの電極部やバッテリーハーネスの端子部が他の金属部に接触していないことを確認して下さい。
6. 交換などでバッテリーハーネスの端子をバッテリーの電極に取付ける場合、+側と-側を絶対に間違えないようにして下さい。(一側を本体に接続(ボディーアース)します。)
7. このバッテリーは12V用で液量点検及び補水不要な密閉式です。
8. 充電時等、いかなる場合においても密閉栓は絶対に外さないで下さい。
9. 充電状態の点検は、電圧計を用い電圧測定により行って下さい。
(規定電圧: 12.8V 以上)
10. バッテリー及び電解液に貼付けの取扱説明書は必ずお読み下さい。
11. シーズンオフ前には完全充電をお奨めします。

搭載バッテリー

型式	公称電圧 (V)	容量 (Ah/10HR)
FTX12-BS	12	10

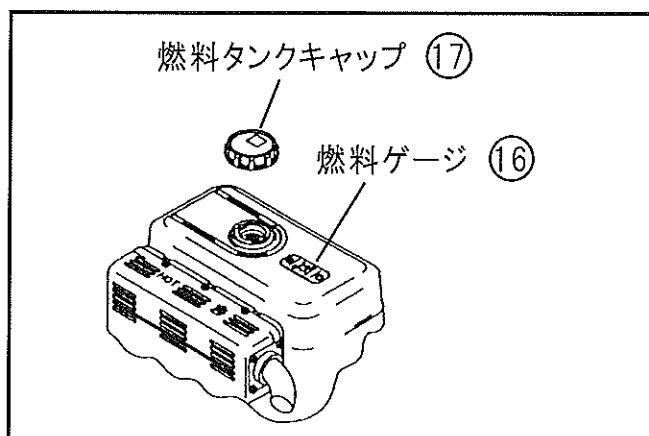


8. エンジンの始動

▲ 危険	ガソリン給油場所周辺は火気厳禁にして下さい。
▲ 警告	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの取扱いについては別紙のエンジン取扱説明書を必ずお読みください。 ガソリンの補給は必ずエンジンを停止させエンジンが冷めてから行って下さい。 給油口 1杯に給油しないで下さい。燃料もれが発生します。

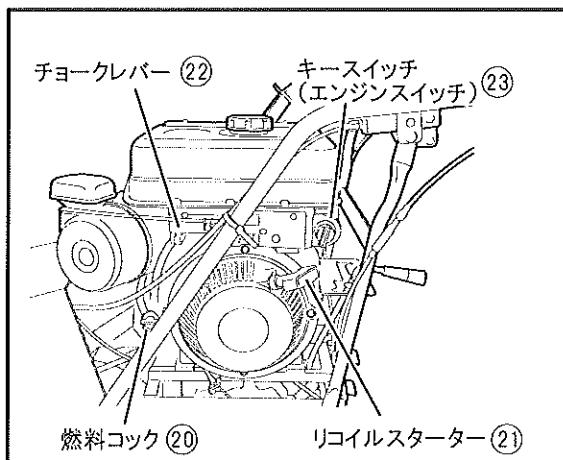
1) ガソリンの点検

燃料タンク⑪にガソリンがあるか点検します。少ない時は、レギュラーガソリンを補給して下さい。補給する時は必ずエンジンを停止してから注入して下さい。火気に注意し、こぼさないよう注入して下さい。万一ガソリンがこぼれた場合は完全に拭きとり、乾かしてから始動して下さい。(タンク容量 5.3 ラル)



2) 始動

1. 燃料コック⑩を開きます。
2. 駐車ブレーキレバー②は「入」にする、ロータリークラッチレバー③と自走クラッチレバー①は「切」にします。
3. ハンドル④右側のスロットルレバー⑬を高速側に少し回転（ハーフスロットル）させます。
4. チョークレバー⑫を全閉にします。（エンジンが温まっている場合はチョークレバーを全開又は、半開にします。）



5. エンジン始動

- ・JRS-6700 セルスター付の場合キースイッチ⑬（スターターキー）をOFFの位置に差込みSTARTの位置まで回し、スターをまわします。エンジンが始動したら、スイッチから手を離して下さい。ONの位置に戻ります。

注意) スターターは5秒以上連続して回さないで下さい。再度スターターを回す場合は15秒以上間隔を空けて下さい。

・JR-6700 の場合

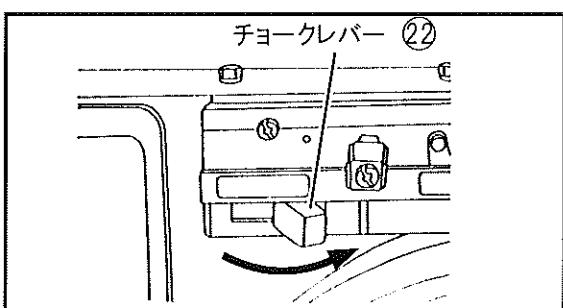
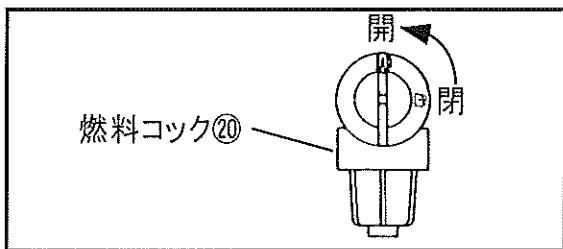
エンジンスイッチ⑬をONにします。リコイルスター⑪で重さを感じるところま軽く引き、ロープを一旦もどしてから引張り方向に勢いよく引張る。ロープを納める際にはロープから手を離さないで、スターの巻き取る速度に合わせてロープを納める。

6. リコイルスター⑪の操作（引張）3回以内でエンジンが始動しない場合は、チョークレバー⑫を全開位置（|+|）にして再びリコイルスター⑪を操作してください。

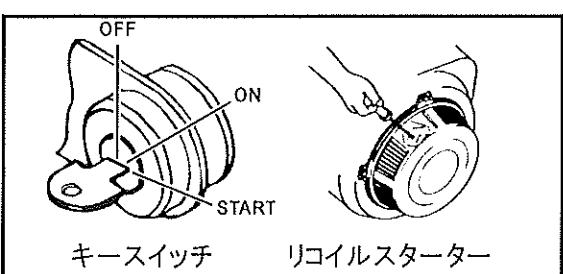
注) この場合、チョークレバー⑫全閉（

）のままリコイルスター⑪を引き続けますと、点火プラグをカブらせ、ますます始動困難になります。

7. エンジンが始動したら、チョークレバー⑫を徐々に全開位置（|+|）に戻します。始動直後に急激に回転をあげないで、しばらく低速で暖機運転して下さい。

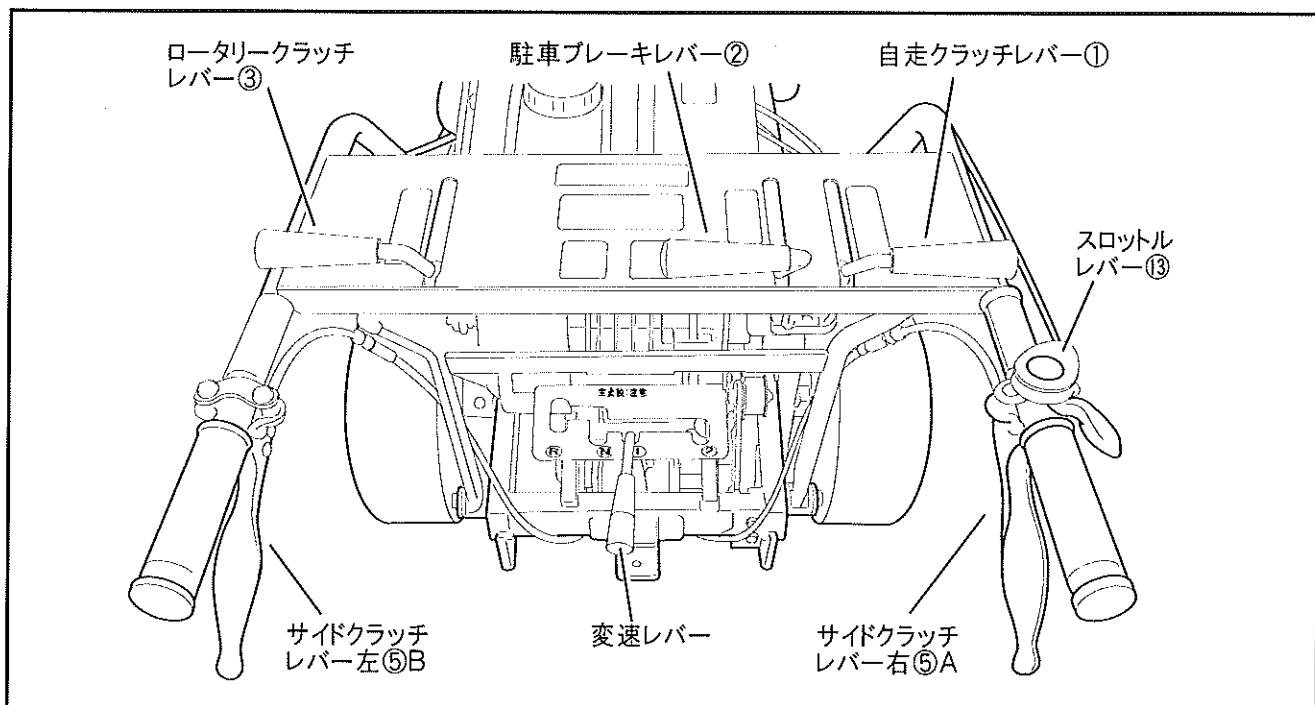


エンジン が冷え て いる場合	 チョーク 全閉位置
エンジン が暖かい 場合	 チョーク 半開位置



3) 作業開始

- 芝生の刈取高さを選定します。(芝生が長く伸びている場合は、最初芝生を高く刈り、日を置いて順次短く刈り込んでいく様にしてください。)
- 変速レバーで自走速度を替える。(最初は低速で作業を開始しその後、高速に替えてください。変速レバーを操作する時は必ず自走クラッチレバー①を「切」にしてから行って下さい。)
- スロットルレバー⑬を「高」にする。
- ロータリークラッチレバー③を「入」にする。
- 自走クラッチレバー①を「入」にして作業開始します。(この際駐車ブレーキレバーは自動的に「切」になります。)
- 方向転換は左、右のサイドクラッチレバー⑤によって行って下さい。



4) エンジンの停止

エンジンを停止させるのに2つの方法があります。

- キースイッチ⑩（エンジンスイッチ）で停止させる方法
 - エンジン又は本機に異状が発生し緊急停止させる場合には、キースイッチ⑩（エンジンスイッチ）を「OFF」にしてエンジンを停止させて下さい。
 - 一時作業をやめ、すぐ再開する場合は、スロットルレバー⑯を一旦「低」位置までもどし、アイドリング状態で1~2分運転させてから、エンジンスイッチを「OFF」にします。
- 引続き作業がない場合、又は長時間保管する場合には燃料コック⑪を閉じます。しばらくアイドリング状態でエンジンを動かしてください。キャブレター内の燃料は数分で消費され、エンジンは止まります。

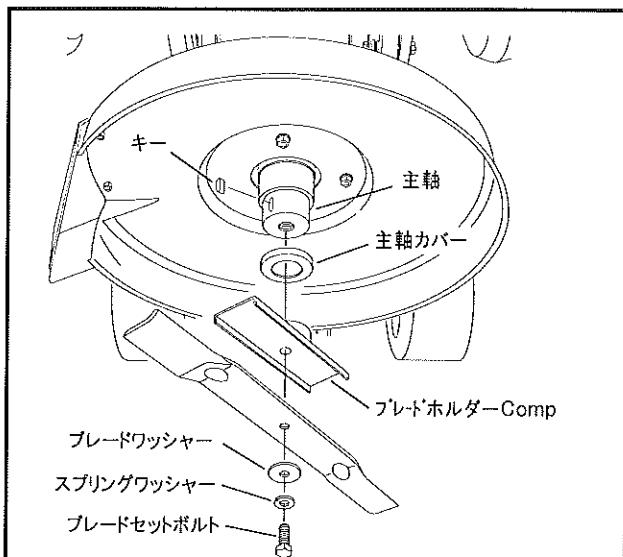
▲ 注意

燃料を入れたまま長時間放置しておきますと、燃料中の不純物がキャブレターの燃料通路等につまり、始動不良、馬力低下等のエンジン不調原因となります。

9. ブレードの点検・交換

▲ 危険	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレードが“摩耗”や“破損”した場合は、芝生が均一に刈れないばかりか、本機に異常振動が発生し大変危険です。必ず作業前にブレードの点検を行って下さい。 ・ブレードの点検・交換時は必ずプラグキャップ⑩を点火プラグより外し、燃料コック⑯を開じてから行って下さい。 ・ブレードの点検・交換時は危険防止の為、厚手の手袋・ヘルメット・安全靴等を着用し、2人以上で作業して下さい。
-------------	--

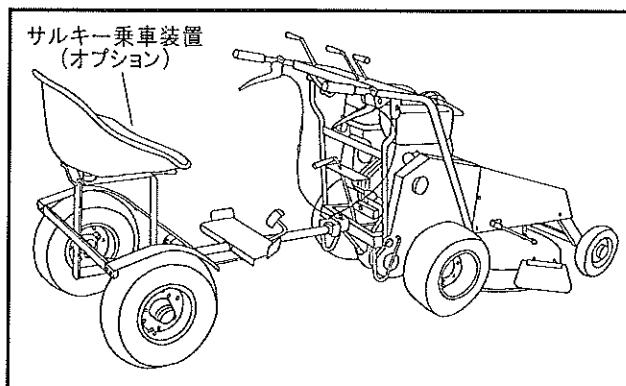
1. 本機前部を持ち上げて点検して下さい。
この時、本機が倒れないように本機を固定する等、十分注意して行って下さい。
2. ブレードを取り外し“摩耗”“破損”的状態を点検して下さい。
3. 中心部のブレードセットボルトは右ねじですので、24のスパナで右まわし（時計方向）で締まり左まわしでゆるみます。
4. ブレード刃先が“摩耗”した場合は、ブレード刃先をヤスリ、グラインダー等で当初の角度をそこなわないように注意して研磨して下さい。その際には、必ず左・右のバランスを点検して下さい。ブレード中央の穴にドライバー等を差し込み、ブレードが水平になるように左・右のブレード刃先を研磨して下さい。
5. ブレードが“破損”している場合は交換して下さい。
6. ブレードセットボルトの“摩耗”“破損”も点検して“摩耗”“破損”があれば新しい物と交換して下さい。
7. ブレードをセットする際はブレードワッシャー及びスプリングワッシャー（必ずゴルデンスター純正部品を使用してください。）を入れ確実に締付けて下さい。



10. サルキー乗車装置（オプション）

▲ 危険	狭い場所や、傾斜地、凹凸のある場所での使用はできません。
-------------	------------------------------

- ・広大で平坦な場所では、このサルキー乗用装置が便利できます。
- ・身長に合せシートを前後に調整して下さい。シート裏側のシートブラケット取付けボルト2本により調整できます。
- ・取付方法の詳細はサルキー乗車装置の取扱説明書を参照下さい。



11. 点検・整備・調整

▲ 警告	・各点検・調整は事故防止の為、必ず行って下さい。 ・必ずエンジンを停止させ、プラグキャップ⑩を点火プラグから抜き、点検・整備・調整を行って下さい。
-------------	--

(但し本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認して下さい。)

点検項目	作業時間	作業毎	25 時間 作業毎	50 時間 作業毎	100 時間 作業毎	300 時間 作業毎
エンジンオイル	点 検	○				
	交 換			※1 ○		
エアークリーナー	点 検	○	スポンジ		ペーパー ^{エレメント}	
	清 掃		※2 ○		※2 ○	
ブレード及び ブレードボルト	点 検	○				
ミッショニオンオイル	交 換					○
ロータリーギャーオイル	交 換			○		
各部のボルト・ナット	点 検	○				
ロータリークラッチ ケーブル	点 検	○				
	調 整			※3 ○		
自走クラッチケーブル	点 検	○				
	調 整			※3 ○		
スロットルケーブル	点 検	○				
	調 整				※3 ○	
駐車ブレーキケーブル	点 検 清掃	○		※3 ○		
点火プラグ	点 検 清掃				○	
バルブ隙間	点 検 清掃				※4 ○	
燃料フィルター 燃料タンク	清 掃			○		
燃料ホース	点 検			○		

※1 初回のみエンジン使用20時間後に交換し、その後定期交換して下さい。

※2 特にホコリ多い所での作業のときは、10時間毎に清掃して下さい。

※3 初回のみ使用5時間後位に調整を行い、その後定期的に調整して下さい。

※4 この点検項目は、特殊工具と整備技術を必要としますので、販売店へご依頼下さい。

12. 長期間保管する場合

▲ 危険	保管場所周辺は火気厳禁にして下さい。
▲ 警告	<ul style="list-style-type: none">・エンジンを停止（エンジンスイッチ②をOFF）させ、点火プラグキヤップ⑩を点火プラグから外して下さい。・JRS-6700型はキーとスイッチよりキーを抜き子供の手の届かない所に保管して下さい。

- 1) 燃料タンク及びキャブレター内のガソリンを抜きます。
 - ・燃料タンクのガソリンを抜く場合は、エンジン取説に従って下さい。
 - ・キャブレター内のガソリンを抜く場合は、キャブレターのドレンプラグを緩め、容器に受けて下さい。
 - ・完全にガソリンが抜けたら、キャブレターのドレンプラグを確実に締付け、燃料チューブを元の状態に戻し燃料コックレバーを閉じます。
- 2) 交換の必要な部品は交換し、各部のボルト・ナットを点検し、緩んでいましたら確実に締め付けて下さい。
- 3) エンジンオイルを交換して下さい。
- 4) エアークリーナーを清掃して下さい。
- 5) さびやすい部品にグリス又は、エンジンオイルを塗布して下さい。
- 6) 点火プラグを外し、プラグ穴からエンジンオイルを 5~10ml 程度注油してリコイルスターターノブを2~3回引いた後、点火プラグを元のように締め付け、リコイルスターターノブを引いて重くなったところで止めて下さい。
- 7) 本機及びエンジンに付着したゴミ等はきれいに清掃して下さい。
- 8) カバーをかけ、湿気やホコリの少ない風通しの良い場所に保管して下さい。
- 9) 子どもの手がとどかない鍵のかかる場所に保管して下さい。

13. 本機の異常と対策

本機に異常があれば、下表の表より原因を探り適切な対策を施して下さい。

状 態	原 因	対 策
エンジンが始動しない。	①ガソリンがない。	ガソリンを補給する。
	②点火プラグから火花がない。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
	③エアークリーナーの詰り。	エレメントの清掃。
	④オーバーチョーク。	点火プラグの清掃
	⑤セルモーターが回転しない。 (JRS-6700)	バッテリーの充電もしくは交換。
	⑥エンジンスイッチがOFFの位置になっている。	ONの位置にする。
エンジンの出力不足及び、回転不安定。	①燃料系の詰まり。	清掃する。
	②エアークリーナーの詰まり。	エレメントの清掃もしくは交換。
	③点火プラグの汚れ。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
エンジンが停止しない。	①スイッチ端子の不良・汚れ及び、スイッチリード線不良。	調整・清掃及び交換。
エンジンがオーバーヒートしている。	①冷却空気取入れ口やシリンダーファン部にゴミが付着している。	清掃する。
	②エンジンオイルの不足。	オイルを補給する。
	③点火プラグ不良。	交換する。
	④エアークリーナーの詰まり。	清掃する。
本機が異常振動する。	①ブレードが破損もしくは曲がっている。	交換する。
	②ブレードボルトもしくはエンジンを取り付けているボルトが緩んでいる。	ボルトを確実に締め付ける。

※表は簡単な異常に対する対策しか書いておりませんので、不明な点や、複雑な異常はお買い上げいただいた販売店に相談して下さい。



製造番号

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願ひいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391代 FAX (0794) 63-5211

東京支店

東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号 〒103-0001
TEL (03) 3664-8811代 FAX (03) 3664-8860

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0005
TEL (0942) 85-9277 FAX (0942) 84-2700

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2番1号 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ株式会社

3360-0805Z